

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

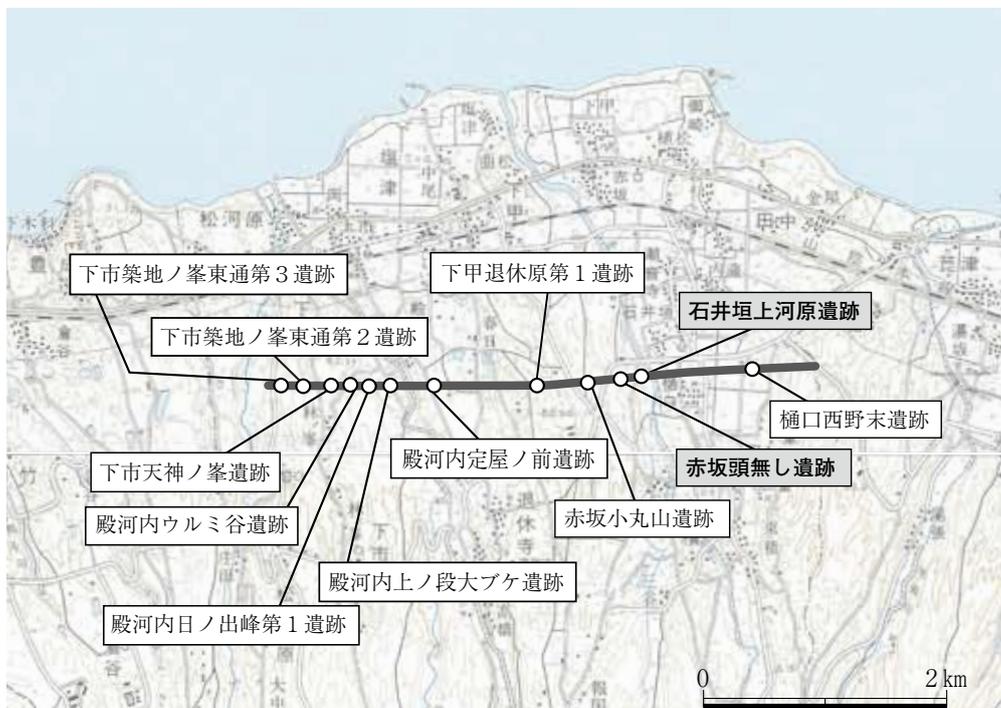
本調査は、平成23年度に一般国道9号中山名和道路の改築に伴い実施した、周知の埋蔵文化財包蔵地(以下、「遺跡」と記載)の本発掘調査である。本発掘調査を実施した遺跡は、石井垣上河原遺跡(西伯郡大山町石井垣)、赤坂頭無し遺跡(西伯郡大山町石井垣)である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められている。鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町内における中山名和道路の計画地内及び隣接地には多数の遺跡が所在し、建設に先立ち計画地内の遺跡の有無、範囲、内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から大山町教育委員会により、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が実施された。また、平成20～22年度には、鳥取県埋蔵文化財センターが確認調査を行った。

上記試掘・確認調査の結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成21年度から鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、樋口西野末遺跡の一部及び下市天神ノ峯遺跡の2遺跡、平成22年度は殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、下市築地ノ峯東通第2遺跡、下市築地ノ峯東通第3遺跡の4遺跡について本発掘調査を実施し、報告書を刊行した。

平成23年度は、石井垣上河原遺跡・赤坂頭無し遺跡(本書)、樋口西野末遺跡、赤坂小丸山遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡が本発掘調査の対象となった。



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査区の名称と調査方法

**石井垣上河原遺跡**の調査前の状況は、山林である。調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採り、B2杭(X: -54190m、Y: -67880m)、E3杭(X: -54220m、Y: -67890m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H19-2-3の56.235mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、光波トランシットによる座標測量を行った。また、調査により検出した貼石を伴う墳墓4基は、高精度な平面、立面測量を実施することにより、詳細な地形・遺構の細部形状の記録を目的として、レーザースキャナーを用いた3次元測量を実施した。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判、4×5判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況および調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

**赤坂頭無し遺跡**の調査前の状況は、山林及び竹林であった。重機表土剥ぎ後、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採用した。座標は、D2杭(X: -54220m、Y: -67960m)、E8杭(X: -54230m、Y: -68020m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H19-2-3の56.235mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判、4×5判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況および調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

### 2 調査の経過

**石井垣上河原遺跡**の調査は、現場作業に先立ち4月1日から4月12日まで調査前地形測量、4月25日から方眼測量、4月7日に調査前航空写真撮影を専門業者に委託して実施した。4月27日には発掘作業員オリエンテーションを行い、現場作業を開始した。なお、墳丘を有する遺構の所在が想定されたため、表土剥ぎは人力で実施した。表土剥ぎ終了後遺構検出・掘り下げ作業に着手し、調査に並行して10月11～13日、27・28日、11月14日に専門業者による3次元測量の現地作業を実施した。11月10日には調査後航空写真撮影を行い、遺構の実測等を経て12月16日をもって現地におけるすべての作業を終了した。

調査の結果、古墳時代前期初頭の墳墓4基、縄文時代の落とし穴3基、弥生時代後期の土坑1基、時期不明の土坑9基を検出した。これらのうち、古墳時代前期初頭の墳墓4基は墳丘形態や貼石のあり方など、前代の弥生時代墓制の特徴を色濃く残しており、本地域の特色を示すものとして重要な成

果を得た。このような重要性を鑑み、10月12日、20日に出雲弥生の森博物館館長渡邊貞幸氏に墳墓の評価等について現地指導を受けた。また、平成24年3月19日には鳥取大学名誉教授赤木三郎氏に墳墓で用いられた石材について、現地及び周辺において指導を受けた。

調査面積は、890㎡である。

**赤坂頭無し遺跡**の調査は、現場作業に先立ち4月1日から4月12日まで調査前地形測量、4月25日から方眼測量、4月7日に調査前航空写真撮影を専門業者に委託して実施した。また、4月18日から4月22日にかけて重機による表土剥ぎ作業を行った。4月27日には発掘作業員オリエンテーションを行い、現場作業を開始した。5月9日からは調査地の中央平坦面から西側部分を中心に、8月2日から東側斜面を中心に包含層掘削および検出作業を行った。

調査後地形測量は11月16日から専門業者に委託し、調査後航空写真撮影は11月25日に実施した。遺構検出及び掘り下げ作業は、12月14日まで発掘作業員を稼働して行い、その後、遺構実測補足作業を行って、12月20日にすべての現地作業を終了した。排土は、調査地より西側の用地内にすべて排出した。

調査の結果、縄文時代の落とし穴8、弥生時代中～後期の竪穴住居跡1、古墳時代後期の竪穴住居跡6、掘立柱建物跡5、土坑7、溝1、時期不明の土坑1、溝3などを検出した。

調査面積は、5,148㎡である。

なお、10月22日に一般を対象とした現地説明会を石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡合同で開催したところ、県内外から71名の方々にご参加いただいた。

### 第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長	久保 穰二郎
次 長	中尾 淳一(兼総務係長)
総 務 係	
副 主 幹	白岩 準市
主 事	楠原 真衣
事 務 職 員	大丸 真紀、岡村 好美

発掘事業室

室 長	山栴 雅美(兼調整係長)
調 整 係	
発掘調査員	岩垣 命
事 務 職 員	倉益 知子

調査担当(大山調査事務所)

副 主 幹	牧本 哲雄(統括責任者)
文化財主事	加藤 裕一(石井垣上河原遺跡調査担当責任者)
	岡田 裕之(赤坂頭無し遺跡調査担当責任者)、中村 茂央
発掘調査員	木村 健明
事 務 職 員	尾崎 勇真(4月～6月)、犬塚 義人(8月～平成24年3月)、小塩 真生

調査日誌抄

石井垣上河原遺跡

- 4月1日 調査前地形測量開始
- 4月7日 調査前航空写真撮影
- 4月25日 方眼測量開始
- 4月27日 発掘作業員稼働開始
- 5月16日 人力による表土掘削開始
- 6月6日 遺構検出・掘り下げ作業に着手
- 7月6日 墳墓検出状況写真撮影
- 10月11日 3次元測量現地作業開始
- 10月12日 出雲弥生の森博物館館長渡邊貞幸氏による現地指導
- 10月20日 出雲弥生の森博物館館長渡邊貞幸氏による現地指導
- 10月22日 赤坂頭無し遺跡と合同で現地説明会
- 11月10日 調査後航空写真撮影
- 11月14日 3次元測量現地作業終了
- 11月15日 墳墓貼石取り上げ作業開始
- 11月29日 墳墓完掘写真撮影
- 12月14日 掘り下げ作業終了。作業員稼働終了
- 12月16日 発掘機材撤収完了、調査終了



写真1 石井垣上河原遺跡調査風景



写真2 赤坂頭無し遺跡表土剥ぎ風景

赤坂頭無し遺跡

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>4月1日 地形測量(～12日)</li> <li>4月7日 調査前航空写真撮影</li> <li>4月18日 重機による表土剥ぎ作業(～22日)</li> <li>4月27日 発掘作業員説明会。作業開始</li> <li>5月9日 包含層掘削開始(C7-G7ラインより西側)</li> <li>5月19日 一時中断(～27日)</li> <li>5月31日 包含層掘削再開</li> <li>6月9日 包含層掘削および検出作業開始</li> <li>6月13日 SI1検出</li> <li>6月17日 SI1・SK2検出写真</li> <li>7月6日 SI2・3検出。SK4完掘写真</li> <li>7月11日 SI4・SK5検出</li> <li>7月13日 SI1掘り下げ。SB1検出・掘り下げ。SK5遺物出土状況写真。SK6検出写真</li> <li>7月28日 SI2検出写真。SI1・SB3他検出・掘り下げ状況写真。SK6土層断面写真。土器溜り検出。</li> <li>8月2日 東側斜面包含層掘削および検出作業開始(C7-G7ラインより東側)</li> <li>8月4日 SI1平面実測。SB2検出・ピット掘り下げ。SB3西側ピット列掘り下げ</li> <li>8月10日 SB2検出・掘り下げ状況写真。SK7平面実測</li> <li>8月29日 SI4検出写真。SB1平面実測終了</li> <li>8月30日 SI3検出写真。SI4掘り下げ。SB4検出・掘り下げ状況写真</li> <li>9月6日 SI2遺物出土状況写真。SB2平面実測終了</li> <li>9月7日 SB2完掘写真。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>9月16日 SI6検出</li> <li>10月4日 SI1床面検出写真。SB4完掘写真</li> <li>10月6日 SB1・3完掘写真</li> <li>10月13日 SI1完掘。SI2床面検出写真。SI6検出写真</li> <li>10月22日 現地説明会開催。71名参加。</li> <li>11月1日 東側斜面包含層掘削終了。SK10土層断面写真。</li> <li>11月4日 SI3床面検出写真。SK9土層断面実測</li> <li>11月16日 調査後地形測量(～25日)</li> <li>11月17日 SI6・7遺物出土状況写真。SK11・13土層断面実測</li> <li>11月21日 SI6床面検出写真。SK12土層断面実測</li> <li>11月25日 調査後航空写真撮影</li> <li>11月28日 SI3・SD3完掘写真。SI4床面検出写真・平面実測</li> <li>12月5日 SK11・12・13完掘および完掘写真。SK14・15・16掘り下げ。SK15土層断面写真</li> <li>12月6日 SI1・2・5、SB1・2・3完掘写真。SI6貼床除去前完掘写真。SK15・16土層断面実測</li> <li>12月12日 SI4・6完掘写真。SK14完掘写真。SD2完掘写真</li> <li>12月14日 発掘道具運搬。作業員稼働終了。</li> <li>12月20日 遺構補足実測終了。すべての現地作業終了。</li> </ul> |
|--|---|

## 第2章 遺跡の立地

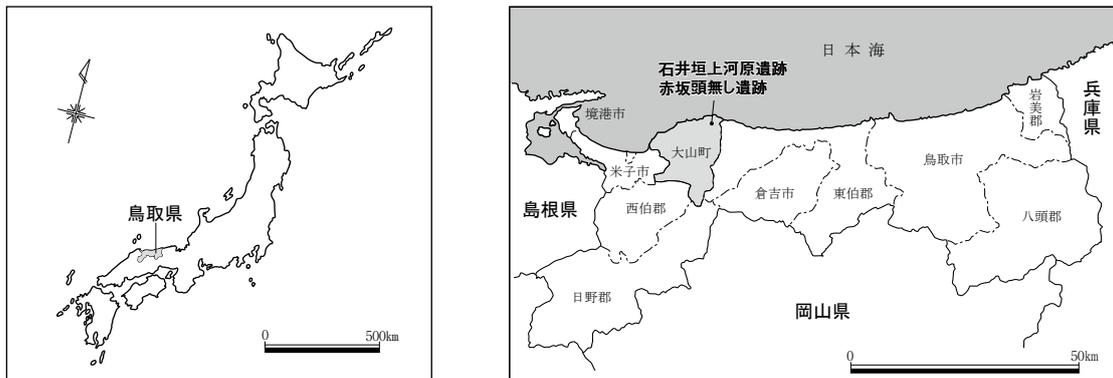
### 第1節 遺跡の立地

石井垣上河原遺跡・赤坂頭無し遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km<sup>2</sup>を測り、人口は18,089人(平成23年7月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

日本海に面した地域では、御崎港、御来屋港を中心に沿岸漁業が盛んで、特にウニ・板ワカメは特産品になっている。町域北側から中部域は、農業を中心とした第1次産業が盛んである。低地では水田、台地上ではブロッコリー、スイカ、果樹などの栽培が盛んである。旧名和地域は台地上にあるという特性から、多数の溜め池が形成され、農業用水として利用されている。町域南側は、高原を利用した畜産が盛んであるとともに、国立公園にも指定され、大山寺・大神山神社などの著名な文化財もある。また、冬季には多くのスキー客で賑わっており、四季を通じて多くの観光客が訪れる県内でも屈指の観光地になっている。

石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡は、大山町東部(旧中山町)、海岸線から約2.6kmの丘陵上に位置する。石井垣上河原遺跡は、標高約72mを測る狭い丘陵上に位置し、赤坂頭無し遺跡は、石井垣上河原遺跡から西へ谷を挟んだ東西幅約140mの広い丘陵上に位置する。標高は約74mを測り、さらに西に谷を挟んで台地上には赤坂小丸山遺跡が広がる。



第2図 遺跡位置図

## 第2節 歴史的環境

ここでは、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡が所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する琴浦町西部地域も含めた周辺遺跡の概要について述べる。

### 旧石器時代

鳥取県下の旧石器資料は16遺跡で確認されている。豊成叶林遺跡(12)では石器ブロックを2ヶ所確認しており、A T火山灰層以下での確認は同町の門前第2遺跡に続き2例目である。石器ブロックとその周辺からは玉髓製のナイフ形石器、石刃、剥片が出土したほか、黒曜石製のナイフ形石器が出土している。その他、梅田萱峯遺跡(73)でナイフ形石器が、豊成上金井谷峰遺跡(15)で台形石器が本来の位置を遊離した状態で出土している。

### 縄文時代

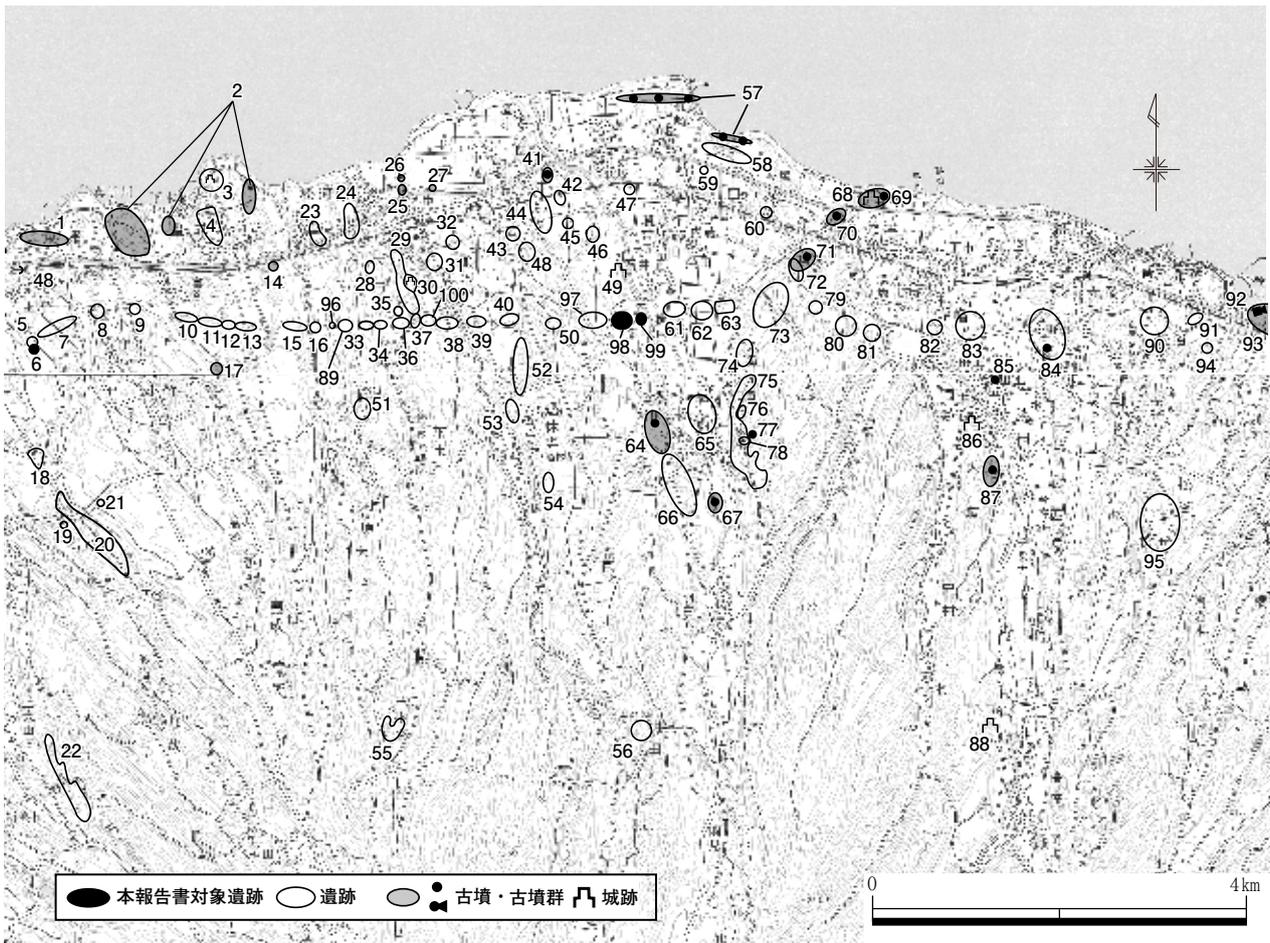
当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、住吉第2遺跡(48)で有茎尖頭器、細工塚遺跡(31)で局部磨製石斧が出土している。早期では、遺構に伴わないが赤坂後口山遺跡(46)、退休寺飛渡り遺跡(53)、上大山第1遺跡(22)、角塚遺跡(18)などで押型文土器が出土している。前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(34)、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。後期では、南原千軒遺跡(82)で石囲い炉をもつ堅穴住居跡が検出され、遺構外からは土偶が出土している。また、後期から晩期にかけての集落遺跡に殿河内上ノ段大ブケ遺跡(38)がある。堅穴住居跡、埋甕、祭祀に関わると考えられる石柱を検出しているほか、土偶も確認している。その他、落とし穴が八重第3遺跡(74)、小松谷遺跡(44)、下甲抜堤遺跡(45)、赤坂後口山遺跡、下市築地ノ峯東通第3遺跡(34)、小竹上鷹ノ尾遺跡(9)、殿河内定屋ノ前遺跡(39)、石井垣上河原遺跡(99)、赤坂頭無し遺跡(98)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

### 弥生時代

この地域では前期の遺構は少なく、樋口第1遺跡(62)、三谷遺跡(66)などで土器が出土している程度である。中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡、退休寺遺跡(52)、退休寺飛渡り遺跡、南原千軒遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、化粧川遺跡(90)などが挙げられる。倉谷荒田遺跡(11)では、中期後葉の堅穴住居跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では墓ノ上遺跡(91)、別所女夫岩峯遺跡(琴浦町別所)で木棺墓が見つかっており、梅田萱峯遺跡では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯弥生墳丘墓)が検出された。現時点で県内では最古級の弥生墳丘墓である。後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、福留遺跡(84)、窺津乳母ヶ谷第2遺跡(80)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(79)、赤坂小丸山遺跡(97)、赤坂頭無し遺跡など丘陵上に集落が多数造営される。湯坂遺跡(81)では小型の墳丘墓を埋葬に伴って増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。終末期には門前第2遺跡より方形墳丘墓である門前1号墓を確認している。

### 古墳時代

当該地域では、早くに造営された遺構に石井垣上河原遺跡の墳墓がある。方形墳墓のほか、山陰地方を中心に墳丘墓の四隅を突出させた、いわゆる四隅突出型墳丘墓の形態的特徴をもつ墳墓を確認している。出土遺物より古墳時代前期初頭と考えられるが、墳墓は弥生時代からの伝統的な姿を引き継



1 東坪古墳群、2 豊成古墳群、3 長野城跡、4 浜ノ坂遺跡、5 西坪岩屋谷遺跡、6 西坪岩屋谷古墳、7 東坪中林遺跡、8 小竹下宮尾遺跡、9 小竹上鷹ノ尾遺跡、10 倉谷西中田遺跡  
 11 倉谷荒田遺跡、12 豊成叶林遺跡、13 豊成上神原遺跡、14 豊成28号墳、15 豊成上金井谷峰遺跡、16 松河原上奥田第2遺跡、17 倉谷横穴群、18 角塚遺跡、19 栃原寮跡  
 20 栃原遺跡、21 上寺谷たたら、22 上大山第1遺跡、23 松河原第3遺跡、24 松河原第2遺跡、25 岩屋堂古墳(岡古墳)、26 岡3号古墳、27 高塚古墳、28 築地峯東通遺跡  
 29 林之峯東通遺跡、30 天守山遺跡・天守山城跡、31 細工塚遺跡、32 向畑遺跡、33 下市築地ノ峯東通第3遺跡、34 下市築地ノ峯東通第2遺跡、35 要害ノ峯遺跡、36 下市天神ノ峯遺跡  
 37 殿河内ウルミ谷遺跡、38 殿河内上ノ段大ブケ遺跡、39 殿河内定屋ノ前遺跡、40 住吉中平野遺跡、41 曲松古墳群、42 林之峯遺跡、43 住吉第1遺跡、44 小松谷遺跡  
 45 下甲坂堤遺跡、46 赤坂後口山遺跡、47 赤坂大五輪塔、48 住吉第2遺跡、49 石井垣城跡、50 下甲退休原第1遺跡、51 築地ノ峰第3遺跡、52 退休寺遺跡、53 退休寺飛渡り遺跡  
 54 退休寺第1遺跡、55 二本松遺跡、56 羽田井遺跡、57 御崎古墳群、58 御崎第1遺跡、59 御崎第2遺跡、60 田中川上遺跡、61 樋口長田遺跡、62 樋口第1遺跡、63 樋口西野末遺跡  
 64 三谷古墳群、65 樋口第2遺跡、66 三谷遺跡、67 東積古墳群、68 籠津城跡、69 籠津古墳群、70 坂ノ上古墳群、71 梅田(栄田)古墳群、72 梅田六ツ塚遺跡、73 梅田萱峯遺跡  
 74 八重第3遺跡、75 八重第4遺跡、76 八重第1遺跡、77 岩屋平ル古墳、78 八重第2遺跡、79 梅田東前谷中峯遺跡、80 籠津乳母ヶ谷第2遺跡、81 湯坂遺跡、82 南原千軒遺跡  
 83 八幡遺跡、84 福留遺跡、85 出上岩屋古墳、86 條山城跡、87 太一垣古墳群、88 大仏山城跡、89 下市前築地遺跡、90 化桂川遺跡、91 墓ノ上遺跡、92 別所1号墳(笠取塚古墳)  
 93 別所古墳群、94 松谷中峰遺跡、95 松ヶ丘遺跡、96 松河原上奥田第3遺跡、97 赤坂小丸山遺跡、98 赤坂頭無し遺跡、99 石井垣上河原遺跡、100 殿河内日ノ出峰第1・2遺跡

第3図 周辺遺跡分布図

いであり、弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての過渡期を示す遺跡である。そのほか、墳形の特徴から前期に築造された可能性をもつ前方後方墳の別所1号墳(笠取塚古墳、52m)(92)がある。中期の後半になると直径30mの大型円墳である高塚古墳(岡1号墳)(27)が造営される。朝顔形埴輪・形象埴輪が出土していることや、その墳丘の規模から当地域の首長墳と位置づけられる。中期から後期にかけては丘陵や段丘上に古墳や横穴墓が群を成して築造されるようになる。御崎古墳群(57)、別所古墳群(93)、籠津古墳群(69)、坂ノ上古墳群(70)、梅田(栄田)古墳群(71)、東積古墳群(67)、三谷古墳群(66)、豊成古墳群(2)などがある。御崎古墳群・別所古墳群・梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつものがみられる。後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(25)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(77)、豊成28号墳(14)、出上岩屋古墳(県史跡)(85)など切石積みの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域にかけての同一文化圏を形成している。この時代の集落は、依然として丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡(89)、倉谷荒田遺跡、中期から後期の住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などがある。赤坂

頭無し遺跡は後期前葉に築かれた集落であり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡を数棟確認している。県下ではこの時期の集落遺跡の調査例が少なく、集落形態や動向を知る上で重要な遺跡である。そのほか、生産遺跡に窺津乳母ヶ谷第2遺跡があり、後期の鍛冶工房が検出されている。

### 古代

大山町東部(旧中山町域)は伯耆国の汗入郡に属する。『倭名類聚抄』によれば、束積・汗入・奈和・尺度・高住・新井の6郷が記載されるが、旧中山町域は束積・汗入の2郷が相当する。汗入郡衙の位置については明らかになっていない。当該地からやや離れるが、琴浦町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定されている。大山町東部では、小松谷遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、八幡遺跡(83)で掘立柱建物跡が確認されている。樋口西野末遺跡(63)でも掘立柱建物跡を検出したほか、丹塗りの墨書土器や硯が出土しており、古代の役所に関連する施設があったと推測される。田中川上遺跡(60)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。栃原窯跡(19)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(21)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。細工塚遺跡では大型の掘立柱建物跡群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力層の建物と想定されている。下市築地ノ峯東通第2遺跡では、須恵器窯3基、製鉄炉1基、炭窯多数が検出されている。大山町名和の名和下菖蒲谷遺跡では、時期は不明であるが古代山陰道推定路線上で道路状遺構が確認されている。また、小竹下宮尾遺跡(8)でも道路状遺構が検出されている。当該地からやや離れるが、大山に築かれる大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。

### 中世

律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。琴浦町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。また、旧名和町域には、名和氏に関する旧跡が認められる。南原千軒遺跡、倉谷西中田遺跡(10)では、方形館跡や鍛冶関連遺構を検出したほか、鍛冶関連遺物が出土した。また、中世城館が各地に残り、窺津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(49)、天守山城跡(30)、條山城跡(86)、大仏山城跡(88)がある。また、長野城跡(3)・窺津城(楨城)跡(68)など日本海沿岸部にも砦跡が築かれている。特徴的な石造物として、琴浦町内の海岸部から船上山にかけて、鎌倉末期と推定される宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碓塔が7基確認されている。

#### 【参考文献】

- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』
- 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
- 内藤正中・真田廣幸・日置条左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社
- 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。

## 第3章 石井垣上河原遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

#### 1 遺跡の立地(第4・5図、PL.1～3)

石井垣上河原遺跡は、大山北麓において日本海方向へ向け派生する丘陵上に立地する。これらの丘陵は、大山山系から流れ出る多数の中小河川によって侵食を受け、放射状に開折することにより形成されたものである。遺跡が位置する丘陵の尾根部は幅狭で、東側は直近を甲川が北流し切り立った崖状を呈する。西側は谷地形へと続く緩斜面地で、谷を挟んだ隣の丘陵上には赤坂頭無し遺跡が位置する。さらに谷地形を挟み西側には赤坂小丸山遺跡が所在する。調査前の地目は山林で、ヒノキが植林されている。標高は約69～73mを測り、尾根部は北方の日本海へ向けて緩やかに傾斜する地形を示す。

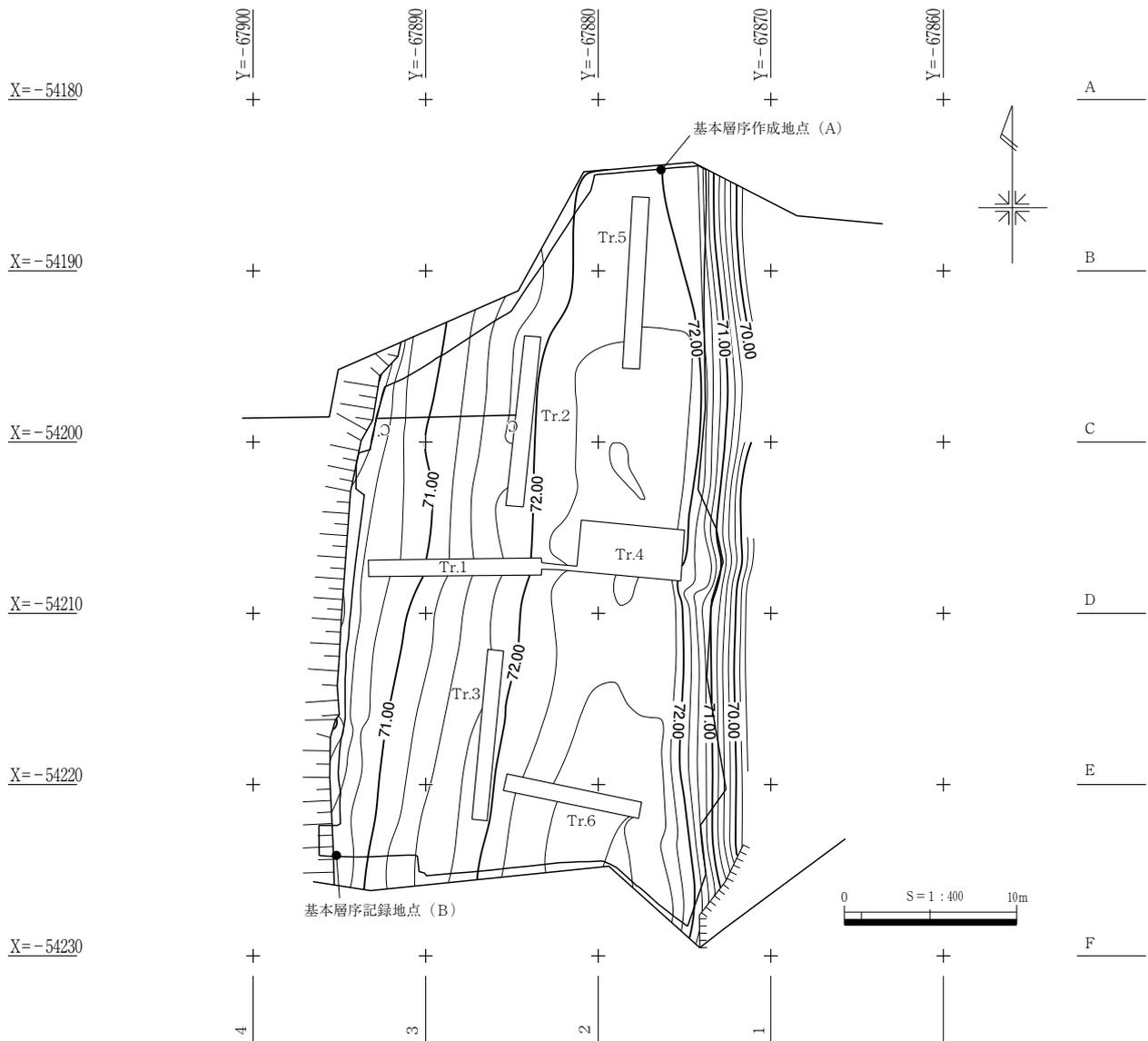
なお、本発掘調査に先立ち、平成22年度に鳥取県埋蔵文化財センターが確認調査を実施し、6箇所の特レンチを設定して調査を行い(第5図 Tr.1～6)、遺跡の存在を確認した(鳥取県埋蔵文化財センター 2012)。

#### 2 基本層序(第5・6図、PL.76)

調査地内における土層堆積については、調査地内の3箇所で行った(第5図A・B地点、C-C'セクション)。原則として尾根部は、斜面への流失や樹木根等の攪乱により土層の遺存状況が不良で、特に北側(A地点付近)はその傾向が顕著である。以下、概要を述べる。



第4図 調査地周辺の地形



※ トレンチ番号(Tr.)は平成22年度確認調査トレンチ番号である。

### 第5図 調査前地形測量図及び基本層序記録地点

- I層：黒褐色(10YR3/2) 表土。10cm程度堆積し、著しく土壌化する。遺物が若干出土する。
- II層：灰黄褐色(10YR4/2) 土壌化の進行した遺物包含層。尾根部では平均で10cm程度、斜面部では20～30cm堆積する。土壌化の影響か、本層上面で検出した明確な遺構は無い。
- III層：黒褐色(10YR3/1) いわゆるクロボクである。尾根部では遺存状況が良くなく、調査地南半を中心に10cm程度堆積する。樹木や草本の根攪乱の影響を受ける。現状では本層上面が遺構面となり、以下の堆積中からは遺物は出土していない。
- 続くIV層以下が基盤層である火山性碎屑物堆積層である。
- IV層：暗褐色(10YR3/3) III層とV層との漸移層である。
- V層：いわゆるソフトローム層に該当する。色調の差異、下に堆積するVII層由来と考えられる砂粒、未風化の火山砂包含量の多寡により細分し、それぞれをVa層、Vb層とした。Va層は明黄褐色(10YR6/6)、Vb層は明黄褐色(10YR7/6)を呈し、Vb層がより多くの砂粒等を包含する。
- VI層：にぶい黄色(2.5Y6/3) V層とVII層の混合層と考えられる。
- VII層：黄灰色(2.5Y5/1) 上又は下のホーキ火山砂層である。調査地北側の一部では、流失のため表